自衛隊の現場

菅通寺（香川県）
陸・海・空の展開と近接戦闘で侵攻阻止
第14旅団、機動力と連携で任務完遂

陸上自衛隊第14旅団（旅団長・大場剛陸将補）は令和6年9月2日から開始された令和6年度陸上自衛隊演習に参加しました。

現地展開に先立ち、各駐屯地では出動準備が行われました。法令教育、通信訓練、精神教育による隊員の士気向上、車両の長距離運行に備えた事前点検などを実施し、機動展開への万全の準備を整えました。

その後、陸・海・空路を使用した機動展開を実施しました。配属・協同部隊を加えた「増強第14旅団」が集結し、大場旅団長は作戦会議で「共に戦おう」と訓示し、隊員の士気を鼓舞しました。

作戦地域に進入した各部隊は、偵察衛星などの敵の監視に対し創意工夫を凝らして行動を秘匿しつつ、防御準備を整えました。

また、敵の潜伏拠点となり得る地域や地点への機動巡察と偵察を行い、潜入を試みる敵特殊部隊の活動を阻止しました。

防衛出動が下令された後は、各種脅威への対処をさらに強化。ヘリ散布地雷による障害構成を行い、増強第14旅団は侵攻阻止態勢を確立しました。

敵部隊の侵攻に対しては、高射特科部隊による対空戦闘を皮切りに、ミサイル攻撃で敵部隊に打撃を与え、情報と火力を連携して徹底的に破砕。MCV（16式機動戦闘車）の機動力を活かした近接戦闘により敵の侵攻を阻止し、各部隊は与えられた任務を見事に完遂しました。

目標を探索する第15即応機動連隊

久居（三重県）
豪雨被災地で生活基盤を支える
能登半島で給水・入浴支援

令和6年9月19日から23日にかけて石川県能登半島地方を襲った豪雨に対応するため、陸上自衛隊第33普通科連隊（連隊長・金子洋幸1等陸佐）は災害派遣活動を実施しました。

連隊は9月20日には速やかに派遣準備を整え、被災地の住民の安心を第一に部隊を派遣しました。現地では、給水支援を中心に活動を展開しました。派遣部隊は地域住民に寄り添いながら要員を順次交代させつつ活動を継続し、9月30日に一旦駐屯地へ帰隊しました。

その後も10月5日から11月18日の間、女性自衛官による入浴支援や衛生支援のための要員を派遣し、地域住民の生活基盤を支える活動を実施しました。

◇　◇

なお全ての災害派遣は、12月13日に終了しました。

（編集局）

給水支援をする隊員

毎日の清掃で清潔なお風呂

桂（京都府）
桂駐屯地創立70周年記念行事
地域とともに歩む節目の交流イベント

陸上自衛隊桂駐屯地（駐屯地司令・吉岡正孝1等陸佐）は令和6年12月1日、地域住民との交流を深めるとともに、自衛隊の活動や役割を広く紹介し、防衛基盤のさらなる充実を図る目的で駐屯地を一般開放し、「桂駐屯地創立70周年兼中部方面後方支援隊創隊20周年記念行事」を開催しました。当日は好天に恵まれ、招待者をはじめ地域の方々約6900人が駐屯地を訪れました。

観閲式や訓練展示の見学に加え、装備品の展示、体験搭乗、野外売店、音楽演奏など、多彩なイベントが実施され、70周年の節目にふさわしい趣向を凝らした催しで多くの参加者に楽しい時間を提供しました。本行事は大盛況のうちに幕を閉じました。

また、前日には「募集広報の日」を設定し、公募で集まった約80人の参加者に総合予行を見学していただき、募集対象者への広報活動としても貴重な機会となりました。

国旗と観閲部隊

八戸・三沢（青森県）
航空自衛隊三沢基地で女性自衛官交流会
相互理解と団結を深める貴重な機会

陸上自衛隊八戸駐屯地、海上自衛隊八戸航空基地、航空自衛隊三沢基地に所属する女性自衛官44人は、令和6年12月3日に航空自衛隊三沢基地で行われた「航空自衛隊三沢基地研修及び陸海空女性自衛官交流会」に参加しました。

本事業は、八戸・三沢地区に所在する陸・海・空自衛隊の隊員が相互理解を深めるとともに、女性隊員間の融和と団結を促進することを目的としており、海自及び空自第3航空団司令との懇談も実施されました。

特に意見交換の時間では、女性ならではの悩みや問題を共有し、さまざまな視点や意見を聞くことができ、非常に貴重な交流の場となりました。

この取り組みを今後も継続し、相互協力態勢の強化に努めていきます。

団結を誓う1枚

市ヶ谷（東京都）
剣道最高位八段審査に合格
中原陸曹長、現役自衛官唯一の八段

陸上自衛隊中央業務支援隊（市ヶ谷）の中原泉陸曹長（48）は、令和6年11月26日に日本武道館で行われた剣道の最高位である八段審査に挑戦しました。

今回、1087人が受審し、わずか9人が合格という厳しい審査の中、中原曹長は見事合格（合格率0・8%）し、現役自衛官唯一の八段となりました。

八段審査は年に3回行われ、合格率は司法書士の国家資格（合格率約4%）を上回る難易度を誇り、まさに「国内最難関の試験」と言われています。

八段の受審資格は、七段を取得してから10年経過し、46歳以上であることが求められ、その難しさから中には20年以上の年月をかけて合格する者もおり、まさに人生を捧げて達成すべき目標と言われています。

中原曹長は小学4年生から剣道を始め、数々の大会で優秀な成績を収めてきました。

自衛隊入隊後も全自衛隊大会で優勝を果たし、その他の大会でも常に上位に名を連ねる実力を誇ります。

中原曹長は、現職自衛官や3OB、実業団の選手たちと共に週2回、駐屯地の体育館で早朝と屋休みを活用して稽古を行い、さらに勤務後には都内の剣道場で週3回の稽古を重ね、自己錬磨に励んできました。

また、剣道を通じて第1普通科連隊（練馬）に所属するご息女とも一緒に汗を流しているとのことです。

八段に合格した中原曹長は「自分が合格したのは奇跡だ」と謙遜しつつ、今後の目標として「今まで以上に努力し、己に克つこと」と、「剣道を歩む仲間や、3人の娘たちの育成」を挙げ、穏やかな瞳の奥に燃える闘志を見せました。

ご息女と剣道に汗を流す

大村（長崎県）
大村航空基地での航空実習
菅候補生が航空部隊の役割と任務を学ぶ

令和6年10月24日、海上自衛隊佐世保教育隊（司令・井上貴嗣1等海佐）は、海上自衛隊大村航空基地において、第22期一般海曹候補生課程の52人を対象に航空実習を実施しました。

まず、参加者は大村運航隊隊員から航空管制員および気象海洋員の業務内容について説明を受けました。

その後、大村航空警備隊の地上救難班による救難消防車（IB型）の展示訓練を見学し、勢いよく放水する消防車に目を輝かせていました。

続いて、整備場に移動し、整備員の案内で機器の整備作業や模擬点管、さらに第22整備補給隊の救命用器材の説明を受け、その機能や用途内隊舎の見学が行われ、また、意見交換や空自第3航空団司令との懇談も実施されました。

特に意見交換の時間では、女性ならではの悩みや問題を共有し、さまざまな視点や意見を聞くことができ、非常に貴重な交流の場となりました。

この取り組みを今後も継続し、相互協力態勢の強化に努めていきます。

SH－60Kについて詳細な説明を受ける

東千歳（北海道）
公道自走を含む長距離機動訓練を実施
地元家族会も激励と声援

陸上自衛隊第7師団（師団長・松永浩二陸将）は、令和6年11月6日から7日にかけて、千歳市および苫小牧市において、公道自走を含む長距離機動訓練を実施しました。

本訓練は、機動運用される師団としての運用実効性を高めるとともに、公道自走の実施に関連する関係機関との連携を強化することを目的としています。

訓練部隊は、第72戦車連隊、第73戦車連隊、第7偵察隊を基幹とし、第11普通科連隊、第7特科連隊、第7高射特科連隊、第7後方支援連隊から必要な部隊を配属して編成されました。訓練には戦車をはじめ、各種装甲車や装輪車が参加しました。

各部隊は、東千歳駐屯地を出発後、千歳市および苫小牧市の公道を安全かつ整然と自走。その後、北海道大演習場東千歳地区第2滑走路に設置された給油所および整備所で、路傍給油や整備を行いました。

訓練の途上では、東千歳駐屯地正門や苫小牧市内の経路沿いにおいて、自治体関係者や自衛隊家族会など自衛隊協力団体の方々から温かい激励と声援を受け、隊員たちの士気は大いに高まりました。

第7師団は、陸上自衛隊唯一の機甲師団として、日本国内のどの地域にも迅速に機動展開し、その強靭な戦力を発揮できるよう、日々訓練にまい進しています。

千歳家族会の見送りの中、駐屯地を出発

苫小牧家族会の激励を受ける

富士（静岡県）
任務達成の証、レンジャー章授与
第54期レンジャー（養成）教育

陸上自衛隊富士教導団（団長・豊田龍二陸将補）は令和6年8月26日から11月8日の約2カ月間、滝ケ原駐屯地および東富士演習場で第54期部隊集合教育「レンジャー（養成）」を実施しました。普通科教導連隊長（山口1等陸佐）が担任官を務めました。

この教育には、厳格な選抜試験を突破した隊員が参加し、前段教育では地図判読、破壊技術、生存技術、山地や水路、空路潜入技術など、レンジャー隊員としての基礎的な知識・技能を修得しました。また、訓練の目的に応じて体力を最適化する体力調整や障害走を通じて、強靭な体力と精神力を養いました。

後段教育では、行動訓練を通じて、敵地で独立して戦闘を行う遊撃部隊としての潜入、襲撃、伏撃、離脱の技術を習得し、困難な状況を克服し任務を完遂する能力を身に付けました。

11月7日、最終任務を終えた11人の隊員は、滝ケ原駐屯地に帰隊し、家族や部隊の仲間に見守られる中、富士教導団長に全ての任務を完了したことを報告しました。その後、精鋭の証であるレンジャー章が授与されました。

富士教導団は新たに誕生した11人のレンジャー隊員を加え、さらに一丸となって「前へ」進んでいきます。

想定訓練

家族や仲間の待つ駐屯地に帰隊

えびの（宮崎県）
秋の防災訓練を支援
自衛隊、地域と連携し安心感醸成

西部方面特科連隊第3大隊（大隊長・東條智二2等陸佐）は、災害担当隊区の熊本県人吉市球磨地区において、防災訓練の支援を行いました。

令和6年の支援は次の日程で実施されました。

・10月20日　人吉市防災訓練
・10月27日　あさぎり町防災訓練
・11月3日　水上村総合防災訓練
・12月1日　球磨村防災学習

訓練では、災害発生時に自治体と各関係機関の連携を強化するとともに、人命救助に関する訓練展示を実施しました。

これにより住民の皆さまに、災害時における自衛隊の活動内容についての理解を深めていただきました。

さらに、活動写真や人命救助システムの展示、車両の展示や体験搭乗も行い、参加者からは「非常にためになりました」といった声が寄せられました。

第3大隊は地域の防災訓練に参加し、住民との交流を通じて自衛隊への親近感や安心感を醸成することができました。今後も地域との連携を深め、計画的で実効性のある訓練を通じて、防災力向上に貢献していきます。

人命救助システムを体験（球磨村）

活動写真展示（水上村）

漢字あそび　第23回

問題・送り仮名、分かるかな？

初級
知らないとちょっと恥ずかしい
・この町は昔、宿場町としてサカエタ。
・著しい発展をトゲタ。

中級
意外とやっかい
・大きな損害をコウムッタが大丈夫だ。
・暗がりでじっと目をコラス。

上級
自慢できるかな
・あれこれと昔のことをホジクリ返す。

（解答は、6面に）（出題・解答・LUCKY）

※数字：頭の体操はお休みします。

躍動 令和7年
防衛省・陸上・海上・航空自衛隊
謹賀新年
がんばろう日本
我ら企業も応援します。
協賛：防衛省関連優良企業（順不同）
協力：公益社団法人自衛隊家族会
企画・制作：（有）防衛企画

Nippi Corporation
日本飛行機株式会社
〒236-8540
神奈川県横浜市金沢区昭和町3175番地
TEL 045-773-5100
FAX 045-773-5102
URL：https://www.nippi.co.jp/

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better
三菱電機株式会社
〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
www.MitsubishiElectric.co.jp

サンケイ総合印刷株式会社
本社 〒100-8077 東京都千代田区大手町一丁目7番2号
産経新聞社11階
TEL 03-5542-1563

想いをカタチに…物流をクリエート
GREEN LOGIPORT
西多摩運送株式會社
本社 〒196-0015 東京都昭島市昭和町1-3-28
TEL (042)546-6111　FAX (042)546-6116
URL https://www.nishitama-unsou.co.jp

With you.
あなたがいる。
あなたといる。
アサヒグループは、共通理念「Asahi Group Philosophy」を掲げ、グローカルな活動を行なっています。
Asahi
アサヒグループジャパン株式会社

すべてを突破する。
TOPPA!!!
TOPPAN
TOPPAN株式会社 〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

IHI
株式会社IHIエアロスペース
本社／〒370-2398 群馬県富岡市藤木900番地
TEL 0274-62-4123　FAX 0274-62-7711
東京事業所／〒135-0061 東京都江東区豊洲3丁目1番1号（豊洲IHIビル）
TEL 03-6204-8000　FAX 03-6204-8810

公益社団法人 自衛隊家族会
防衛情報誌「おやばと新聞」広告業務
有限会社 防衛企画
〒104-0061 東京都中央区銀座1-20-14 銀座NKビル3F
TEL 03-3538-2676　FAX 03-5250-8617